鶴見区区政会議 令和6年度第1回地域保健福祉部会

1 日時

令和6年6月27日（木） 18時30分～19時27分

2 場所

鶴見区役所 3階 302会議室

3 出席者

（委員）

南口部会長、桑名副部会長、有村委員、金児委員、西山（靖）委員、橋本委員※、
原田委員、万谷委員（※はWeb参加）

（区役所）

木村政策推進担当課長、広瀬保健福祉課長、貴田保健担当課長、
大川生活支援担当課長、仲田総務課政策推進担当課長代理、
秋本市民協働課長代理、橋本保健福祉課福祉担当課長代理、
丹葉保健福祉課地域福祉担当課長代理兼市民協働課長代理、
菅野保健副主幹、徳市民協働課担当係長、鈴木保健福祉課担当係長
當麻保健福祉課担当係長

4 議題

1. 令和6年度鶴見区区政会議の進め方について
2. 令和5年度鶴見区運営方針自己評価について
3. その他

5 議事

開会 18時30分

○當麻保健福祉課担当係長 皆様、大変お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから鶴見区区政会議令和6年度第1回地域保健福祉部会を開会してま

いりたいと思います。

私は本日司会を務めます保健福祉課担当係長の當麻でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は委員の方のうち、保田委員におかれましてはご欠席とお伺いしていますので、ここでご報告いたします。

それでは、早速ではございますが、これより議事進行を南口部会長にお願いいたします。部会長、よろしくお願いいたします。

○南口部会長 部会長の南口です。よろしくお願いいたします。

本日は今年度初めての部会ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、次第に基づき議事を進めてまいりたいと思います。議題1、「令和6年度鶴見区区政会議の進め方について」、事務局から説明をお願いいたします。

○仲田総務課政策推進担当課長代理 総務課の仲田と申します。

私からは議題1、令和6年度鶴見区区政会議の進め方についてご説明いたします。資料1、令和6年度鶴見区区政会議スケジュール（案）をご覧くださいませでしょうか。1枚物の資料になっております。大丈夫でしょうか。

既にご承知のことかと存じますが、鶴見区の区政会議につきましては、全体会と部会に分けて運営を行っております。委員の定数は24名となっております。20名以上の方が1つの会議に参加し、幅広く、また専門的な分野に関して多くのご意見をいただくことは困難との考えから、少人数での部会を3つ設けております。各部会にて専門的な意見交換を行うことによって、効果的かつ効率的な区政会議の議論に資することを意図しております。一方、全体会につきましては、各部会での意見などの報告を主眼としつつ、所属する部会以外の内容についても大局的な見地から意見を頂戴できればと考えております。なお、その各部会での意見などの報告につきましては、部会長より報告をいただいております。

少し前置きが長くなりましたが、まず本日の第1回部会におきまして、令和5年度鶴見区運営方針自己評価に関するご意見を部会ごとに頂戴したいと考えております。具体的には、昨年度である令和5年度の取組の実績や評価、またその評価を踏まえ、次年度である令和7年度の取組の方向性などについて、後ほど各担当者からご説明させていただきます。

続きまして、9月上旬頃に第1回全体会を開催し、昨年度の第3回全体会で出された意見、また本日の当部会や、その他2つの部会で出された意見を共有するとともに、所属部会以外の項目につきましても、大局的な見地からご意見をいただきたいと考えております。

次に、11月の第2回の部会では、第1回目の部会や全体会でのご意見を踏まえ、来年度である令和7年度の鶴見区運営方針を作成するに当たっての素案を部会ごとにお示しし、改めて委員の皆様のご意見をいただきたいと考えております。

さらに1月下旬から2月上旬にかけて、第3回の部会を開催し、11月の第2回部会にて委員の皆様からいただいたご意見などを踏まえて策定する、令和7年度鶴見区運営方針（案）をお示ししたいと考えております。ただし素案から案にかけましては、例年大幅な変更はございません。今年度につきましても変更がなかった場合には、各担当者からの事業説明は最低限のものにとどめたいと考えております。その結果、会議の開催時間は短くなることを見込まれます。そこで部会終了後には昨年度も実施いたしました「勉強会・意見交換会」を同日実施し、委員の皆様にとって関心の高い事業や、本市における特色ある取組などについてご説明させていただき、各部会が所掌する分野における理解向上の一助になればと考えています。

最後に、3月には第2回の全体会を開催し、これまでの各部会での意見を共有するとともに、令和7年度鶴見区運営方針（案）や予算（案）についてご説明させていただく予定としております。

令和6年度の鶴見区区政会議の年間スケジュールについてのご説明は以上でございます。

ます。

○南口部会長 ありがとうございます。今の説明について皆さん、ご意見などはございますでしょうか。大丈夫ですか。

それでは、次の議題に進みたいと思います。議題2、「令和5年度鶴見区運営方針自己評価について」各担当から説明をお願いいたします。

○當麻保健福祉課担当係長 まず、具体的な自己評価に関する説明の前に、この運営方針の構成について簡単にご説明させていただきたいと思います。

運営方針の構成につきましては、大きく分けて2つの基本事項で構成されております。1つ目は、中期的な計画などをお示しする施策。2つ目は、単年度の計画などをお示ししている具体的取組です。

具体的に資料に沿ってご説明させていただきます。資料2の3ページをご覧くださいませでしょうか。よろしいでしょうか。まずは中期的な計画などをお示ししております施策に関しましてご説明いたします。まず、中期的な計画、目標、実績としまして、体系、施策の方向性や内容、黒丸の①としまして、中期の成果指標、②の目標、実績値、③の当年度までの評価結果及び今後の方向性といった項目で構成しております。ここでの内容は、令和5年度に策定いたしました、鶴見区将来ビジョンに基づく令和9年度までの施策展開の方向性などを記載しております。この施策内容に基づきまして、令和9年度までの間、次のページ以降、具体的には4ページから6ページにかけてお示しいたします単年度の計画や、具体的取組を進めていくといったものになります。端的に申し上げます、令和5年度から令和9年度までの中期的な計画などを示している施策の下位概念として単年度の計画などを示す具体的取組があり、目的と手段の関係性にあります。

これから令和5年度の運営方針自己評価の説明をさせていただきますが、説明は施策1-1、施策1-2の順番に行います。各施策の説明の順序といたしましては、まず中期的な計画などをお示ししている施策の体系、施策の方向性や内容、中期の成果

指標から始まり、次に単年度の計画などをお示ししている具体的取組の評価、最後に施策の評価になります。資料のページが前後になりますが、追ってページはご案内させていただきます。ご容赦いただければと思います。

それではまず3ページ、同じページの施策1-1から順番にご説明いたします。施策1-1では、体系としまして将来ビジョン柱1「つながる・支えあう」、経営課題としては1の「だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり」ということです。施策の方向性として、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」、その内容は、人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮し存在を認め合い、支え合うことで、地域で孤立せず、その人らしい生活を送ることができるような、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」を進めてまいります。中期の成果指標として、3本立てにさせてもらっています。①、区民アンケートで、日常生活の中で「お元気ですか」や「何かお困りですか」など住民同士の声かけ、見守り、支え合いが行われていると感じると回答した区民の割合、②、「地活協の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合、③、区民アンケートで、運動や食生活など、健康に関する取組を行っていると感じると回答した区民の割合、これを成果指標とさせていただきます。

続きまして、具体的取組を順番にご説明させていただきます。

○鈴木保健福祉課担当係長 保健福祉課高齢者支援担当の鈴木です。よろしくお願いいたします。

それでは、私から4ページのご説明をさせていただきます。単年度計画、目標、実績、具体的取組1-1-1地域福祉力の向上、④、当年度の取組内容として、地域の相談窓口や関係機関との連携の充実、地域福祉コーディネーター「つなげ隊」の配置、コミュニティソーシャルワーカー、CSWの配置、次に、住民同士の助け合い活動の支援として、地域有償ボランティア活動「あいまち」の実施、「つなげ隊」及び

「あいまち会員」への研修開催を予定しておりました。

当年度の取組実績としまして、⑥のとおり予定どおり実施いたしました。

⑤、単年度の成果指標として、「つなげ隊」が対応した地域住民等からの相談件数、「あいまち会員」の会員登録継続意向アンケートで、今後も続けていきたいと回答した割合としておりました。

⑦、当年度の評価結果をご覧ください。地域の福祉課題に関する相談窓口として、各地域に配置している地域福祉コーディネーター「つなげ隊」への相談件数は4,365件であり、目標値には至っていないが、令和4年度の実績値3,931件や、コロナ禍前の令和元年度の実績値2,339件を上回っており、地域の身近な相談窓口、地域に必要な助け合い活動が着実に定着しつつある。地域有償ボランティアである「あいまち会員」に対する会員登録継続意向アンケートで、今後も続けていきたいと回答した割合は79.6%であり、目標を達成することができました。

⑧、次年度の取組の方向性として、地域の身近な相談窓口、地域に必要な助け合い活動をさらに定着させるため、「つなげ隊」について、区広報紙に定期的に掲載し、その主な活動及び連絡先等の周知を行う等、広報強化に努めます。また、各地域において、ネットワーク委員会等の活動と連携して、地域福祉活動を行う中で各地域における認知度向上を図るとともに、各研修や地域の集まりなどの積極的な情報発信に努めます。また引き続き、「あいまち会員」が安心して依頼・活動できるよう、「あいまち」の委託先と連携しながら、「あいまち」の広報活動の強化、利用の促進に向けた取組を進めてまいります。

以上です。

○徳市民協働課担当係長　　続きまして具体的取組1-1-2について、市民協働課の徳から説明させていただきます。

資料のページにつきましては、5ページになりますのでご覧ください。鶴見区におきましては、様々な地域活動のプラットフォームとして地域活動協議会があります。

施策でもありますように「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」の達成のための具体的取組の1つとしまして、具体的な取組1-1-2で記載している地域活動協議会による自律的な地域運営の促進につながる取組を計画しております。達成のための当年度の取組内容といたしましては、地域の実情に応じたきめ細やかな支援としまして、町会加入促進リーフレットの転入者等への配付、不動産会社と連携した不動産契約者への情報発信を行いました。

また、地活協の意義や求められる機能の理解促進としまして、各地域の運営委員会での準行政機能に係る情報発信や総意形成機能に関する助言や指導を行ってまいりました。

さらに、区の状況に応じた支援の実施としまして、まちづくりセンターと連携した支援の実施や、新しい生活様式に適した活動支援を実施してまいりました。

その成果ですけれども、単年度の成果指標としましては、「地活協の構成団体が自分の地域に即した支援を受けることができていると感じる」と評価した各地域活動協議会の運営委員の割合、「地活協の構成団体が地活協に求められている準行政機能を認識している」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合、「地活協の構成団体が地活協に求められている総意形成機能を認識している」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合、この3つを指標としてきました。

その当年度の評価結果ですけれども、まちづくりセンターと連携して各地域課題に即したきめ細やかな支援を継続して実施してきましたが、「地活協の構成団体が自分の地域に即した支援を受けることができている」と評価した割合については、目標値90%には至らず、昨年度並みの実績値82.7%となっており、ほぼ横ばいの状態となっております。これは各地活協の構成団体が自律的に取組を進めている状況から、まちづくりセンターの支援を要する態様の濃淡も顕著となり、支援の必要性が薄くなっている団体が増えてきているとも考えられます。

地活協の意義・機能につきましては、各地活協の運営委員会や補助金説明会など、

様々な機会を活用いたしまして、準行政的機能に係る情報発信や総意形成機能に関する助言の実施を通して理解促進を図ったことから、準行政的機能の認識度につきましては、目標値80%には至らなかったものの、実績値68.5%と昨年度より16.4ポイント上昇し、総意形成機能の認識度につきましては、実績値73.2%と目標値70%を上回るとともに、昨年度実績の51.8%よりも大幅に上昇しました。

この評価結果を踏まえました次年度の取組の方向性でございますが、地活協による自律的な地域運営の促進に向け、引き続きまちづくりセンターと連携したきめ細やかな支援に取り組むとともに、地活協の役割、活動内容等の情報を様々な広報媒体、機会を捉え、積極的かつ戦略的に情報発信をしていきたいと考えております。

○当麻保健福祉課担当係長 続きまして、次の6ページをご覧くださいませでしょうか。私から具体的取組1-1-3、健康増進意識の向上についてご報告させていただきます。まず、当年度の取組内容としましては、区民の自主的な健康づくりを進めるための取組としまして、食育フェスタの開催、健康展の開催、健康に関する講演会の開催、ウォーキング教室の開催、これらを各1回開催予定しておりました。また、ウォーキングカレンダーの発行や、食育に関する調理実習の開催、百歳体操など地域・関係機関等による健康づくり活動の継続実施に向けた支援を予定しておりました。また栄養・食生活・運動・タバコなどの健康に役立つ情報発信ということで、広報紙、ホームページ、フェイスブック、啓発チラシの配布を随時、またがん検診、乳幼児健診など、区が実施する保健福祉事業の際に啓発を実施予定としておりました内容は、全て取組を予定どおり実施することができました。

ここで成果指標を定めております単年度の内容につきましては、イベント参加者へのアンケートで健康に関する取組へのきっかけとなったと回答した区民の割合を指標として定めておりました。この指標の評価結果につきましては、実績値は94.4%となりまして、目標値として設定しておりました70%を上回る結果となっております。新型コロナウイルス感染症が5類へ移行した令和5年5月より、類型相当の基本的な感染

防止対策を講じながら、各種イベント等を開催してまいりました。特に調理実習におきましては、試食を再開させるなど、開催手法を切り替えていく年度となりました。また食育フェスタ、健康展やウォーキング教室、調理実習など、参加者の満足度は高くなつたと捉えております。

次年度の取組の方向性につきましては、今後も区民の健康増進意識の向上を図るため、食生活の改善や運動など健康に関する取組の機会を提供するべく、各種イベントの開催や、区広報紙、SNS等を活用した情報発信を継続していく必要があると考えているところであります。

ここまでの3つの単年度計画のご報告となりまして、次に中期の成果指標に移らせていただきたいと思います。少しページをお戻りいただきます。3ページをご覧くださいでしょうか。3ページ一番下の大きな四角囲いの中、黒丸③です。当年度までの評価結果及び今後の方向性をご報告いたします。成果指標1につきましては、目標値40%に対しまして実績値37.8%であり、目標値には至りませんでした。前年度実績値34.1%や、コロナ禍前の令和元年度実績値34.3%を上回っております。「つなげ隊」への相談実績や「あいまち」の継続希望状況を踏まえると、困り事に対する支え合いの役割は果たしているところであり、今後はこうしたセーフティネットの存在を区民全般に広く周知していく必要があると考えております。

成果指標2につきましては、目標値90%に対し、実績値94.8%でした。まちづくりセンターと課題を共有し、各地域課題に即したきめ細やかな支援を行った成果が表れたと考えております。今後も関係機関や地域等とも十分連携した上で、隣近所の挨拶などの声かけや見守りなどを促し、人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮し、お互いを認め合い、支え合うことで地域で孤立せず、その人らしい生活を送ることができるよう、気にかける・つながる・支えあう地域づくりを進めてまいります。

成果指標3につきましては、前年度実績値83.2%より微減でありましたが、目標値を上回る81.6%となりました。健康増進のために知りたい内容としては、前年度と同

様、栄養・食生活が63.0%、運動が47.1%、休養・こころの健康が35.5%、生活習慣病などが30.2%と上位を占めております。その中でも、栄養・食生活への関心の度合いが前年度と比べまして54.0%から63.0%へ高まっております。今後も引き続き、区民の健康増進意識の向上を図るため、食生活の改善や運動など健康に関する取組の機会を提供するべく、各種イベントの開催や区広報紙、SNS等を活用した情報発信を継続してまいりたいと考えております。

施策1-1につきましては、以上になります。

○南口部会長　ただいま各担当者の方より令和5年度鶴見区運営方針のうち、施策1-1や、それに基づく具体的取組に関する自己評価について説明がございましたけれども、何かご意見はございますでしょうか。施策1-1について、何かご意見等がございましたらよろしく願いたいと思います。皆さん、ございませんか。

橋本委員、聞こえています。

○橋本委員　私ですか。

○南口部会長　大丈夫、聞こえています。

○橋本委員　意見ですか。

○南口部会長　いえいえ、違います、何もございませんか。大丈夫ですか。

○橋本委員　ちょっと報告はあるのですが、先日、「つなげ隊」に相談しようとしたのですが、逃げるようにすぐに帰られてたので、それだったら意味がないなと思って、「つなげ隊」はお断りしました。そうすると社協から来られて、やはり社協の方はプロだから、対話を通じる方でお話をしたのですが、結局、来ていただかなくて結構ですとお断りしました。当事者としては、地域と仲よくしたいのですが、対話が不十分ですと、こちらも困ってしまうので、それよりやはりネット上でだったら、たくさん友達がいてるわけですよ。ですから希望としましては、当事者が気軽に会話できるSNS上のポータルサイトみたいなのができたらいいなと思っています。

○南口部会長　橋本委員、橋本さん、ちょっといい、橋本さん、ちょっといいです

か。橋本さん、聞こえます。

○橋本委員 スマホの保持率も80%、90%を超えていると思うので。

○南口部会長 橋本さん、聞いてもらえません。

○橋本委員 SNSの使い方とかをちょっと提案されたら、地域で孤立化というような方も少なくなるかもなと思いました。

○南口部会長 橋本さん、聞こえています。

○橋本委員 いっぱいあるのですが、今日はこの辺で。

○南口部会長 はい、分かりました。今のXの話とか云々は、また行政で動いていただくとして、ただ私から「つなげ隊」で頑張っておられる皆さん、たくさんいらっしゃいますので、橋本委員とうまく歩調が合わなかったとかというのは例外として、「つなげ隊」の方が頑張っておられるというところは、皆さんご理解いただきたいと思います。

桑名委員。

○桑名副部会長 桑名です。

「つなげ隊」の話ですけど、4ページの7番、これを見たら「つなげ隊」への相談件数が4,365件と評価されているんですけど、実際に月別で400件弱の相談があるということですか、月に換算したら。

○鈴木保健福祉課担当係長 そうですね。月で割ると単純にそうなります。

○桑名副部会長 それだけ多いの、400件も。

○鈴木保健福祉課担当係長 そうですね。

○桑名副部会長 400件弱があるとしたら、鶴見区で12の地域があるので、大変でしょうけどもできましたら、12地域別の件数が分かれば、我々もすごく評価しやすくなります。例えば茨田東と鶴見は地域性が違い、高齢者数も違うので、そういう件数がもし出れば、また教えてもらいたいなと思っています。月に400件ってびっくりしました。

もう一つ、5ページの当年度の評価結果、7番の箇所です。これはまちセンの話ですけれども、まちセンがだんだんと必要性が薄くなっている団体が増えてきていると考えられているということは、同感です。私は嫌いじゃないですよ。しかしまちセンに頼ってもどうしても最終的に分からなかったら、市民協働課にまちセンが走るはずですよ。ということはダイレクトにこんな問題があるからと言って、市民協働課と相談すれば、処理が早いですよ。僕だったら、「ちょっと待ってね、調べてきます、ちょっと市民協働課さんと相談してきます。」というように。まちセンに相談すると、回り回って来るからちょっと時間がかかる。まちセンだけで単独で決定権を持って「こうです。」と言い切れるのだったら別ですけど、今までの経験からしたら、例えば「こんなことをしていいのか。」とか、「こういうことに気をつけてね。」とか、「ちょっとそれは分からないけれども相談してみます。」と言ったら、やはり3日、4日かかるから、そういうこともあってだんだんとまちセンと離れている。確かに助かっているんですけども、今ここに出ているように、支援の必要性が薄くなっている団体が増えているということは確かです。正直にどんな人もそうなんです。「嫌い」などという言い方は失礼ですけど、薄くなっている、だんだんそうになっているから、まちセンの在り方、まちセンの仕事の仕方ということを、もうちょっと役所も考えてもらって、まちセンが主体的に仕事がやれるようにしないと時間がかかって仕方がない、その辺もちょっと検討してください。よろしく。

○南口部会長　あと皆さんから、1－1についてございますでしょうか。

金児委員、ございますか。

○金児委員　ありがとうございます、金児です。

これは意見というか、シンプルに役所の方に聞きたいのですが、施策1－1の「だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり」に対して、①区民アンケートで日常生活の中でいうところですけど、ここだけパーセンテージかなり低いなというふうに思っています。鶴見区に住まわれている方でこれが何で上がってこないのかなという

ところと、ほかの数字でいうと70%台とか80%台が結構、いわゆる達成されているとか目標値に対していい数字で上がってくるなと思うのですが、ここが弱いので、何かこれに対してアプローチを考えていく必要があるのか、どういうことを目標としていくのかとか、ご意見をお聞かせいただけたらうれしいなと思います。

○南口部会長 どうですか。私も金児委員と一緒に、最初から目標値が40%なんていうことは、もともとそんなに高くないだろうと役所で分かっている数字設定をしているんだと思うので、分かったうえで何か理由があるんだと思うのですが、どなたか、すみません、ある程度分かるのですよ。区民アンケートなので、いろいろな世代のいろいろな方にアンケートをとって、お困り事はありますか、こうですかと声をかけてもらう側の人間と、声をかける側、いや、簡単に言うと、この数字が低いということは、自分は何もしてませんという人が圧倒的に多いというふうにも捉えられるので、鶴見区だけじゃなくて今の世相を反映しているのかなという気がしますけど。ただ行政としてどういうふうにご覧されているのかというのは、この場でちょっとお示しいただければと思います。

○徳市民協働課担当係長 市民協働課、徳です。

一応①の目標値が低いというのは実際にあって、南口部会長が話したとおり、区民アンケートなので、いろいろな世代のいろいろな方にアンケートをとっていることが理由にあるのですが、それに対しても令和9年度には60%に持っていかうとまでは考えております。そのための取組として1つ「あいまち」であるとか、「つなげ隊」を周知していくことで、そういう困ったときに、声をかけやすいような、そういう環境が整備できていたらなというふうに思っているのが1つです。

2番目の地活協の構成団体への評価実績が高いのは、実際に地域活動をされている方に対してのアンケートになりますので、やはり皆さんが自ら活動されている人に対して、そういった支援というのですかね、きめ細やかな支援を行われたかと聞いたときには、評価が高くなるのかなというふうに考えております。食生活につきましては、

実際にふだん皆さんが日頃から運動に気をつけているよとか、食生活に気をつけているよという方も多数いらっしゃるかと思います。区役所が支援をしなくても、そういうことをもともと考えられている方もいるのかなと思いますので、区民アンケートをしましても、評価が高いのかなというふうに考えているところでございます。今の回答で答えになっていますかね。

○南口部会長　多分なっていないと思うので、もう一度金児委員から、これは多分金児委員も一緒やと思うのですが、「あいまち」とか「つなげ隊」とか例えば徳さん、使わないでしょう。

○徳市民協働課担当係長　私、今はそうですね。

○南口部会長　ということは、そういう人に区民アンケートをとると「あいまち」とか「つなげ隊」とか関係ないわけですよ。そう考えると、今の「つなげ隊」とか「あいまち」というところを整備するだけではこの数字は上がってこない。例えば今の30代、40代の人で「おばあちゃん、お困り事はありませんか。」と声をかけてくれるような人間を増やしていこうとしないと、この数字は上がっていかないと思うのです。区民アンケートというところで言うと、例えば公民館に集う年寄りの人にアンケートをとれば、この数字はもうちょっと変わると思います。

○徳市民協働課担当係長　当事者ということですよ。

○南口部会長　そう。だからそういう意味では、やっている方向性が「あいまち」とか「つなげ隊」だけではこの数字は単純には上がっていかないと、私はちょっと思います。多分金児委員も一緒だと思いますけど。

○金児委員　全部を言ってくださったなと思います。ありがとうございます。でもおっしゃるとおりだと思います。お声をかけられる側とお声をかける側が接点を生まない限りは、ちょっとこの数字が上がってくるというのはなかなか見えづらいのかなと思っています。分かりやすく言えばパーセンテージが低いので、ここにアプローチをもっと強く持ってくるのが僕はいいのかなとはちょっと思いました。なので何かも

うちちょっと具体の動きがあればいいかなと思います。

○桑名副部長　金児委員と部会長も今言いましたけど、どこでどういう場所でどういう時間でアンケートをとっているのかということが問題だと思います。例えば区役所に来ている人にアンケートをとっているのか、街頭でとっているか、あるいは地域のどこそこでとっているのか。先ほども雑談していたんですけれども、例えば私は毎日5時に起きて近所の大きな公園で体操に行くのですが、大体もう30人、40人ぐらいが体操するために出てきています。その人たちも高齢者ばかりだから、その人に私たちも逆に言われるときもあるけど、「元気ですか。」や「昨日来られませんでしたが、どうしていました。」とか、そういうところでアンケートをとると比率が上がってくる。アンケートをとる場所や時間帯次第で評価は変わってきます。これに併せて言いますと例えば、以前にもアンケートで鶴見区は住みよい町だという回答がだんだん上がって、住みよい率が上がってきていると、それも私が先ほど言いました、どこでアンケートをとったかによります。例えば横堤でアンケートをとれば、近くに病院とかがたくさんあるから、鶴見区に来てよかったと評価されるけれども、例えば茨田東は何もない。鶴見区に来てよかったのか、それを先ほど言ったように、全体を集約してどの地域の人が鶴見区に来てよかったとか、鶴見区で生まれてきてよかったかというふうな評価もこれから必要になる。だからやはり人だまりの多く、買物するのに便利がいいところとか、そういうところで便利がいいから住んでよかったという人もいるかも分かりませんが、例えば茨田東でしたら、市場もないし、買物へ行くにも不便だから、こんなところ、鶴見区は嫌だなという人もいるかもしれません。今後の役所の仕事が増えるかも分かりませんが、そういう地域ごとに当たって細かくアンケートをとっていったら、そういった割合はずっと変わってくると思います。また個別に私たちもこうやって「こんにちは、元気です。」と誰とでも話して、逆に私も言われるけど、二、三日顔を見なかったら「どうしてたの。」と心配をかけています。もしも知らない人をこれから引っ張り込もうと思ったら、何かを実行してやらな

いといけないはずで、初めから全く知らない人にかけても反応がないです。誰か私の知っている人が、「あの人は知っているよ。」というふうなのがあれば、その人が頼んでいくと思う。ずっと見守りとかネットワークを通じてやっていかないと、ダイレクトに「おばちゃん、元気。」と言ったら、「あんた、誰。」と言われるかも分からない。だから「あの人は私、よく知ってるよ、おしゃべりをするよ」と、そうしたら「あんた、お願いしますね、ちょっと声をかけてねと、うちに来てね。」そういうふうなやり方をしないと、幾つやっても変わりません。あくまでもとったアンケートはアンケートでしかない。実際の根拠がないわけだから、これからも大変でしょうけど、できたらそういうふうをお願いしております。

○南口部会長 ありがとうございます。「支え合う人口を増やそう」というのが目的で、ある程度のパーセンテージを上げるための施策ではないと思っているので、若い方、高齢の方で特に先ほど申し上げたように、まだ若い方が高齢者に対して支え合うような気持ちをいかに感化していくかというところに行政の方として取り組んでいただいて、その結果パーセントが上がるというのが一番望ましいわけです。単純にテクニックでパーセントを上げて、こればかりは意味がないと思いますので、よろしく願いいたします。

皆さん、よろしいですか。

それでは施策1-1についてはそういうことで、では続いて施策1-2や、それに基づく具体的取組について、各担当者の方からご説明をお願いいたします。

○鈴木保健福祉課担当係長 それでは、高齢者支援担当、鈴木からご説明させていただきます。

7ページをご覧ください。体系、将来ビジョン柱1「つながる・支えあう」、経営課題1、「だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり」、施策1-2の方向性、「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」、施策内容としては、支援を必要とするすべての人に必要な支援が行き届く地域社会の実現に向けて、生活

の場である地域を基盤として、「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」をめざします、としています。

成果指標中期は、区民アンケートで「地域で支援を必要としている人に必要な支援が行き届く地域社会になっていると感じる」と回答した区民の割合としております。

次に、8ページをご覧ください。単年度計画としまして、具体的取組1-2-1、相談支援体制の充実として、④、当年度の取組内容では、区民に対する認知症対策の普及・啓発、大阪市認知症アプリなどを活用した認知症の普及・啓発、区役所職員に対する認知症の普及・啓発、養成講座の開催、複合的な課題を抱えた要援護者などに対応するために、地域と専門職、専門職間のネットワークづくりを進め、相談支援体制の充実を図ります。総合的な支援調整の場、つながる場の開催を通年としておりました。

今年度の取組実績としましては、⑥のとおり予定どおり実施させていただきました。⑤、単年度の成果指標として、大阪市認証アプリの活用方法の説明を受け、①及び②の合計人数としておりました、①、ダウンロード完了した方の人数、②、大阪市認知症アプリのコンテンツである「私のケアノート」、印刷物を受け取った方の人数、つながる場の参加者へのアンケートで、「関係者が一堂に会することで、要援護者、要援護世帯の抱える問題を解きほぐすことができ、支援の見通しがたった」と回答した割合を指標としております。

当年度の評価結果では、認知症に関する正しい知識と理解の普及促進を進めるべく、大阪市認知症アプリや私のケアノートの利用周知に努めたが、目標500人には及びませんでした。引き続き区役所をはじめ、関係機関窓口での周知や広報に努めていく。区役所職員に対する認知症の普及啓発・養成講座を3回実施し、62人の参加を得た。総合的な相談支援体制の充実事業「つながる場」を2回開催し、参加者アンケートの実績値は27%と、目標値60%を大きく下回ってしまいました。つながる場の開催目的には、支援の方向性の確認のほかに情報共有などもあり、各回10名程度の参加の中で、

参加目的により回答に偏りが出る指標となっていた。令和6年度については指標を困難な事例に対し、「つながる場において情報共有や支援の方向性が確認できた」に変更し、改めて検証してまいります。

次年度の取組の方向性では、地域で暮らす認知症の人や家族の困り事の支援ニーズに対応できるよう、認知症サポーターの拡充を図ることとし、区民向けに認知症サポーター養成講座やステップアップ研修の開催等の取組を進める。複合的な課題を抱えた人に対し、専門家等スーパーバイザーの助言を活用しながら、各相談支援機関や地域住民、行政等が分野を超えて連携し、支援することができる総合的な相談支援体制の充実に向け、関係機関や職員向け研修を行うこととします。

では7ページ、また戻っていただけますでしょうか。③、当年度の評価結果及び今後の方向性では、成果指標は実績値34.4%であり、前年度の37.8%を下回ったものの、目標値30%は上回った。福祉課題が一層複雑化・多様化・深刻化し、複合的な課題を抱えた人や世帯が多数存在する中で、引き続き相談や対応が行えるよう、総合的な相談支援体制の充実事業の普及促進、相談支援体制を支える人材の育成確保、権利擁護支援体制の強化に努め、見守り相談室を含めた相談支援体制の充実を図るとしております。

以上です。

○南口部会長 ありがとうございます。令和5年度に鶴見区運営方針のうち、施策1-2や、それに基づく具体的取組について自己評価、説明がありましたが、何かご意見はございますでしょうか。

逆に私から、今具体的な取組として、認知症の啓発の話がいろいろとございましたけれども、少し観点はずれるのですけれど、以前たしか金児委員からだったと思うのですが、群馬だったか栃木だったか忘れちゃったけど、関係局と連携して、はだして歩いている認知症の方のお話が少し出たと思います。全然この取組とは違うとは思いますが、例えば、そういう取組をされている都道府県があったり、いろいろな市

町村があつたりする中で、今後、鶴見区として何か認知症の方が徘徊されるということに対して、地域の支え合う力だけではなくて、行政として何か施策を打っていかうというお考えがあるのかということをお聞きしたいなと思います。いや、ないならな
いで結構ですよ。

○丹葉保健福祉課地域福祉担当課長代理兼市民協働課長代理 地域福祉担当課長代理の丹葉でございます。

今いただいた意見につきましては、認知症に限定したものではないのですけれども、まず区社会福祉協議会の方と連携した見守りの仕組みというものはありまして、ふだん民生委員さんとか、地域の役員さんとか、地域の取組みに参加された方等からいただいた情報と行政が管理する情報を活用した見守りを実施しています。

また、認知症のある方に対しましても、地域の見守りの目の中でちょっと気になる方については、報告いただく仕組みもございます。

こうした方々につきましては、支援が必要な方のリストを行政で管理していますので、もちろん、ご本人やその家族の方に同意が取れた方に限定されますけれども、この方をちょっと気にかけてくださいという仕組みはあります。ただし、そこに皆さんが同意をされているわけではありません。家族の方がおられるから大丈夫ということで、希望されない方もおられます。そのため、そういった場合は、なかなか行政から地域の方に、この方たちを見守ってくださいということができませんので、我々行政や関係機関からアプローチをしていく、そういう取組みを充実してまいりたいと考えています。その他、例えば、コンビニエンスストアから情報提供いただくであるとか、新聞や牛乳配達といった、ふだんの生活圏で活動されている方から何かあれば情報を提供してくださいというような取組みも行っています。ただ、現時点では、それがきっちりした仕組みで機能しているとは言い難い状況にあります。

つきましては、行政だけではなく、また地域住民だけでもない、鶴見区で活動されるすべての方が日常生活の中でいろいろと目にした気になることが行政機関等に

っかりと届くような仕組みをこれからつくって行けるよう、企業等との連携、包括連携先をいろいろと開拓していければと思っています。今後コンビニエンスストアであるとか、郵便局であるとか、地域の方が日常生活のなかで多く利用されているところにもそういうふうな目線を持っていただけるよう連携を強化していきたいと思っています。

○南口部会長 ありがとうございます。いろいろなところで先ほどおっしゃったように、コンビニでというのも、例えばお年寄りの方がコンビニで買ったけどお財布を持っていないとか、そんなことも多分事例としてあるでしょうし、はだしで歩いていると以前金児委員から聞いたのもそうですし、いろいろなことがあるでしょうから、今後とも鶴見区の中でそういう方がすぐに発見できるような仕組みが出来上がれば、それこそ住みやすいまちになると思いますので、よろしくをお願いします。

ほかの皆さん、何か1－2でご質問とかはございますでしょうか。

ではないようですので、本日は活発なご意見をありがとうございました。ほかに意見もないようですので、議題2についてはこれまでといたします。

本日出された意見については取りまとめた上で、9月に開催予定の次回全体会議で私から部会報告をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日予定されている2つの議題は終了いたしました。皆様ありがとうございました。

では最後に、議題3「その他」として事務局から連絡事項などはございますでしょうか。

○仲田総務課政策推進担当課長代理 私から簡単に2点、事務連絡などをさせていただきます。まず、1点目でございます。次第にも記載してありますとおり、先日前送りの資料の中には、右上に参考と書いてある、タイトルが「令和5年度運営方針共通様式」というものがございます。2枚もので裏表、計4ページにわたる資料でございます。こちらにつきましては大阪市の各所属が共通して作成している様式

でございます。ホームページにも掲載しているものでございます。内容といたしましては、先ほど各担当者から説明があったとおり、資料2の内容を抜粋または要約などを行っているものであることから、この部会ではその資料説明は省略させていただきますが、お時間があれば目を通していただけますと幸いです。

次に、2点目でございます。冒頭私から説明させてもらいましたとおり、9月の上旬には、今年度第1回目の区政会議全体会を開催したいと考えております。つきましては7月下旬から8月上旬にかけて、区政会議委員の皆様のご都合を把握するために、またご連絡をさせていただき予定でございます。内容を確認の上、返信などいただきますようよろしくお願い申し上げます。

私からの事務連絡は以上でございます。

○南口部会長 ありがとうございました。

それでは、これで鶴見区区政会議第1回地域保健福祉部会を閉会いたします。

皆さん、ありがとうございました。

閉会 19時27分